

平成二十七年秋

春日神社

正式参拜

金沢市の発展を見つめてきた春日神社と十社会

増泉という地は、福井方面から金沢城に向かう中で、北國街道を少し逸れた犀川の手前に位置しております。

このことから増泉は元より春日神社十社会の地域とは、京の都より長旅を続けてきた人々と、横江の荘園から金沢城にかけて発展に次ぐ発展を続けていた地域住民が一堂に集う場所となつていったことを想像することは、そう難しくはありません。

つい最近も、横江町や押野高皇産霊神社等で懇切丁寧に調べられた歴史から、人々の移り変わりの様子が少しずつ見えてきております。

米泉の地も、この加賀平野発展の歴史の中に深く関わっていることは自明と受け取つており、伏見川や高橋川から受ける恩恵を以て、肥沃な大地に広大な農地を構えたことに間違いはないでしょう。

そして人が多く集まっていたからこそ、神社祭礼に対しての崇敬もより厚くなつていったのでしょうか。

時代はさして古いわけではないのですが、明治時代の観光案内本が石川県立図書館に所蔵されておりますので、そちらのコピーを資料として添付させていただきます。

この中には、金沢の有名観光地十か所が、達筆の俳句と小さな風景画で描かれております。

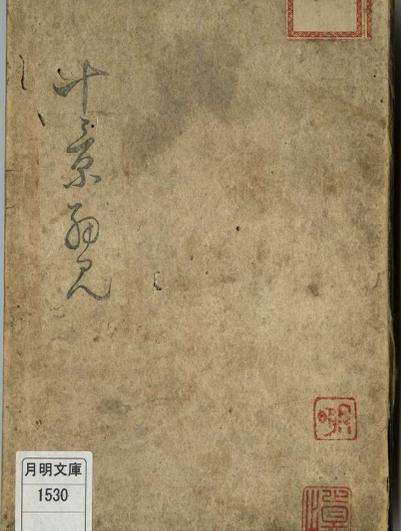
この十か所のうちの 하나가、ここ増泉春日神社です。

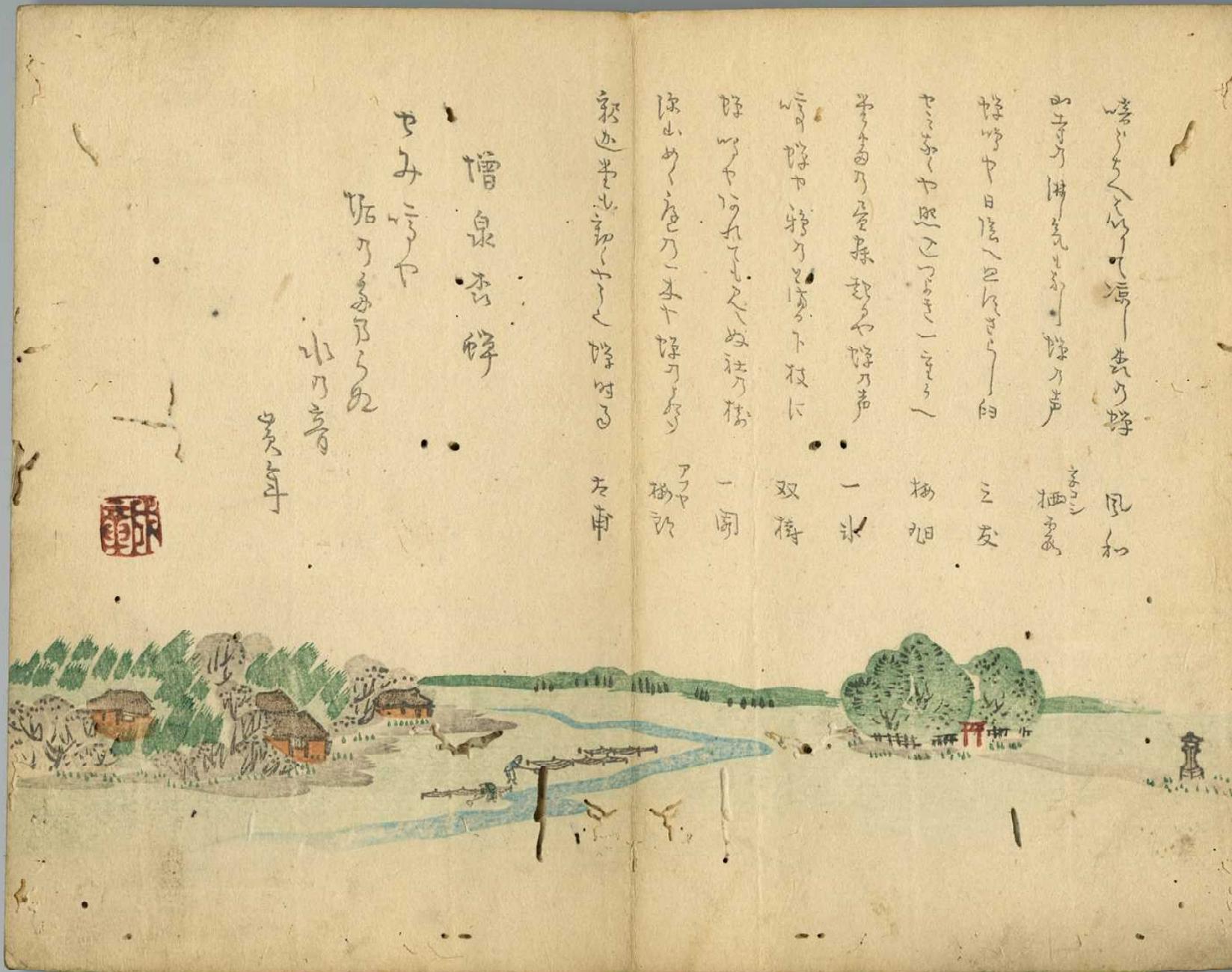
今でも夏になると昼夜問わず大きな鳴き声を響かせてくれる蝉たちが、その歴史の証人となつており、掲載されている「増泉森蝉」の名を現代に残してくれております。

人も、虫も、またその地の歴史も、自然の森の中で守り続けている、これぞ神社と云つたところでしょうか。

時代を伝え、人々の生活を見守り続けております神社の価値を、ゆつたりとした時間の中で見つめ返してみるのも、また一興でしょう。

平成二十七年 十月 二十三日





雲はくもくして涼しき声
 山はくもくして涼しき声
 梅竹や日影の長き声
 ささやかしらぬ声
 草のゆり音森のゆり声
 竹のゆり音と下枝に
 降ゆやうらぬとぬたつ樹
 深山のゆり音と下枝に
 寂しきゆり音と下枝に

風和
 栖鳥
 之友
 梅旭
 一氷
 双梅
 一圃
 阿彌
 樹歌
 左申

僧泉杏餅

やみ

垢乃ま乃らぬ

水乃音

美由



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

見細景十
月明文庫 1530